

2018年6月1日

西宮つとがわY M C A 保育園 6月えんだより

年主題 『イエスさまとともに生きる～愛の交わりの中で～』
 年主題聖句 「愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、
 わたしたちも互いに愛し合うべきです。」
 <ヨハネの手紙Ⅰ 4章11節>

山肌を覆う新緑がまぶしく感じる季節です。緑に誘われ山登りにふらっと行きました。思い立って出かけたので、連れ立つ人もなく一人黙々と歩きました。ルートは山の稜線を西から東に歩いていく10km程の道のり。稜線まで一気に登っていく間は、上がっても終わらない坂を見あげながらとにかく息を整え登り、稜線にたどりついてからは木々の間を縫って山の香りと木々の緑と空の蒼さのコントラストを楽しみながら峰の切れ目まで歩きました。クライマックスは突然に表れる下り坂。目の前180度にははるか遠くの大坂や奈良の山々まで見渡せ、眼下には小さく家々が広がる様子が見える場所から少しずつ街へと下ります。坂を上からのぞけば岩肌の崖を降りていくように感じるスリリングな道のり。これまで木々に覆われていた視界が一気に広がり、ちょっとでも足を滑らせたなら50メートル以上は滑落してしまいそうな岩肌を恐る恐る降りていると優雅に鳥が飛んでいる姿が目に入りました。自分は必死に岩肌にしがみつかながらちょっとずつしか歩みを進めないような小さな存在なのに、なんて空を飛ぶ鳥は自由なのだろう、とふと普段は思いもせぬような感覚を感じました。

私たち人間は自分を主張するために小さなことにこだわり、自分をよりよく見せようとしたり、思い悩みを抱えてしまいがちなところがあります。子どもはその日その日の暮らしを過ごしていきますが、いつしかいろんな思い、悩みを持ち何かに追われたり縛られたりして生きるようになっていっているような感覚を感じるようになってしまいます。保育園で子どもたちに「自由にのびのびと」育てほしいと願い関わっていますが、それは身勝手な自由、わがままの主張ではなく、ひとりひとりが持っている賜物をいろんなことに束縛されず伸びていくことができる力が育つことを指します。空の鳥が生きるために自由に空を飛びように、子どもたちも与えられた命に感謝し、それぞれが持っている賜物を存分に発揮して、いつも出会いと経験があふれる保育を行っていきたいと思います。その中でこの幼少期の貴重な時期にしっかりと自分らしく地に足をつけて歩いていける「生きる力」が育つ場になるように願っています。

6月の聖句 「空の鳥をよく見なさい。」
 <マタイによる福音書 6章26説>

6月	乳児(0,1,2歳児)	幼児(3,4,5歳児)
月主題	動き出す	動き出す
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 探索活動を楽しむ。 * のびのびと身体を動かして遊ぶ。 * 保育者に受け止めてもらいながら自分を出して過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> * 遊びやトラブルを通して、互いの気持ちや考えを探ったり、自分の気持ちを伝えようとする。 * 自然の不思議さに目をとめ、関心を持つ。
讚美歌	ことりたちは	